

「コロキウム：日本・ポルトガル・欧州連合（EU）協力」（2014年10月28日）
における東博史大使開会挨拶

ルイ・マシエッテ外務大臣閣下
ブルーノ・マサンエス外務副大臣閣下
講師の皆様
ご来場の皆様

本日、ここに、日本国大使館とポルトガル外務省の共催により、「コロキウム：日本・ポルトガル・欧州連合（EU）協力」を開催できることは、まことにご同慶の至りであります。私は、ルイ・マシエッテ外務大臣、ブルーノ・マサンエス外務副大臣を初め、その実現のために尽力して下さったポルトガルの皆様に心からお礼を申し上げます。また、この行事のためにご参集下さった高名なパネリストの皆様に、深く感謝申し上げます。

本日の「コロキウム」に際して、我が国の岸田文雄外務大臣よりメッセージが寄せられております。ここでこれを紹介申し上げます。

「コロキウム：日本・ポルトガル・EU協力」の開催に当たり、心よりお祝い申し上げます。

日本とポルトガルは長い歴史的な紐帯を有しており、昨年は両国の交流470周年を慶賀しました。本年5月には、安倍晋三総理大臣が、日本の総理大臣として史上初めてポルトガルを公式訪問したことに象徴されるように、日本とポルトガルの関係は様々な分野で一層、進展しています。

日本と欧州諸国は、民主主義、法の支配、人権といった基本的価値及び開放された市場、ルールに基づく国際制度といった原則を共有しています。これを基盤に日本と欧州連合（EU）は、幅広い分野における協力を拡大、強化し、貿易・投資関係を強化することを目指して、経済連携協定（EPA）と戦略的パートナーシップ協定（SPA）の交渉を進めています。

こうした中、日本、ポルトガル及びEUの政治、経済、文化の各分野から高い見識と豊かな経験をお持ちの方々により、日本とポルトガル、日本とEUの関係の現状と今後について率直な意見交換が行われることを期待しています。これは、誠に時宜にかなったことと思います。

今回の「コロキウム：日本・ポルトガル・EU協力」においては、安倍総理のポルトガル訪問によって高まった両国間の協力強化の気運を活かし、私たちの交流を一層高い次元へと発展させていく多様で斬新な構想を是非示していただけることを期待しています。

2014年10月28日
日本国外務大臣 岸田文雄

さて、ただいまの岸田外務大臣メッセージでも言及されておりました様に、本年5月、安倍晋三総理大臣がポルトガルを訪問しました。これは日本の現職総理大臣による初めての当国訪問として、歴史に残る画期的な訪問となりました。そして、本日の「コロキウム」はそのフォローアップとして、また今後の日本とポルトガル、日本と欧州との関係を一層発展させていく上で、極めて意義深いものと考えています。

それはこういうことです。

ここリスボンにおいて、安倍総理大臣はパッソス・コエーリョ首相と首脳会談を行い、多岐に亘る議題について掘り下げた議論を行いました。私自身、首脳会談に同席し、両首脳の熱のこもったやりとりに強い印象を受けました。

両首脳は、政治・安全保障面では、今後の両国間の関係を発展させていく基盤として、両国がグローバルに開かれた「海洋国家」であり、民主主義を初め基本的な価値と原則を共有していることを確認しました。経済面では、我が国とトロイカ支援から「条件なし卒業」のポルトガルとが貿易・投資の促進に本格的に取り組む環境が整ったとの認識の下、様々な交流の方策で一致しました。また、相互理解の一層の促進のために、文化・学術・人的交流を一層進めて行くことの重要性が強調されました。

両首脳は二国間関係に留まることなく、より幅広い枠組みで協力を構築していくことを謳いました。ひとつは、日本と欧州全体との関係です。またもうひとつは、日本とポルトガル語圏共同体（CPLP）諸国とのコンタクトです。

私たちはポルトガル政府、ポルトガルの皆さんと協力して、この首脳外交の重要な成果のフォローアップを行って参りました。

日ポルトガル二国間関係では、政治面では高いレベルの交流が進んでいます。例えば、この夏、日本から稲田朋美内閣府特命担当大臣と二組の国会議員団がポルトガルを来訪し

ました。また9月に日本で開催された「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」には、シャンパリモー財団理事長が出席され、議論に大きく貢献されました。その関連資料はこの会場で皆様へ配布させていただきます。更にポルトガルからは、近く、パウロ・ポルタス副首相が再度訪日される予定であり、私はこれを心強く感じています。

経済面では、6月にポルトガルからアスンサオン・クリスタス農業海洋大臣が訪日して精力的に会談・視察をされました。そして、本日よりは、パリジェトロの主宰でビジネスミッションがポルトガルを来訪し、総勢20名以上の我が国民間企業の方々がこの「コロキウム」にも参加されます。

文化面では、去る6月にベレン地区にて開催した「日本祭り」は今年も大盛況でした。また、グルベンキアン財団では、7月に稲田大臣がクールジャパンについて講演を行い大好評を博し、そして現在は日本を代表する書家作品91点を展示する「日本の書展」が開催されています。

二国間関係を越えて、まず日本と欧州との間では、岸田外務大臣がメッセージで述べたように、「日EU戦略的パートナーシップ協定（SPA）」と「日EU経済連携協定（EPA）」の交渉が進んでいます。特に包括的かつ高いレベルのEPAの実現は日本と欧州の双方に大きな利益をもたらすものであり、日本は早期の交渉妥結と協定締結を望んでいることを強調したいと思います。

次に、ポルトガル語圏共同体（CPLP）との関係については、去る7月の東ティモールにおけるCPLP首脳会談において、日本の同機構へのオブザーバー参加が決定されました。こうして始まりつつある日本とCPLPとの新たな関係の中で、今月初めのサントメ・プリンシペでの国政選挙へ在ポルトガル日本国大使館より政務担当官を選挙監視要員として派遣したことは、格別の意義を持つと考えます。また、今般のジェトロ・ビジネスミッションの来訪の機会に、日本企業等と「CPLPビジネス連盟」加盟企業との初めてのコンタクトが実現することになっています。

これらの協力の具体化を進めつつ、私は、日ポルトガル関係が「新たな段階」に入り、今後、政治・経済・文化等あらゆる面で更に両国関係を強化していくことになると考えます。去る5月の両国首脳共同声明にも明記された本日の「コロキウム」は、その具体化のための手立てを提示してくれる場となるものと確信しております。それは、近い将来に予定されるパソス・コエーリョ首相の日本公式訪問へ向けた、重要な過程でもあります。

ご清聴、どうも有り難うございました。